

大豆情報 第3号



JAとнами野HP

令和5年7月27日
JAとнами野米作改良対策本部
とнами野農業協同組合
砺波農林振興センター

- 培土が完了していないほ場では、生育量確保と雑草抑制のため、晴れ間を見て確実に培土をしましょう。
- 大豆は開花期に入り、根粒の活性維持と開花・着莢、子実肥大のため、多くの水分を必要とする時期になります。
- 畦間かん水**は短時間に行い、その後速やかに排水しましょう。
- 基本防除**は適期に2回、実施しましょう。
- 防除や除草作業等は複数名で行い、ケガや事故に備えるとともに、**熱中症予防**の

1 畦間かん水（営農日誌p103参照）

- ・9月上旬頃までの間、晴天が3日以上続くと見込まれた場合は、積極的に畦間かん水を行いましょう。
- ・畦間かん水は、ほ場全体に水を短時間で行き渡らせ、その後速やかに排水しましょう。このため、日頃から排水溝の連結を確認し、適宜、手直しをしましょう。

2 病虫害防除（営農日誌p104参照）

(1) 基本防除

- ・2回の防除を徹底し、病虫害の発生をしっかりと防ぎましょう。

防除時期	対象病虫害	粉剤体系	液剤体系	
			地上防除	空散防除
1回目 莢が伸び切った頃 【8月中旬】	紫斑病 カメムシ類	Zボルドー粉剤DL (3kg/10a) + スミチオン粉剤3DL (4kg/10a)	トライフロアブル+スミチオン乳剤	
			1000倍、150ℓ/10a (各薬剤150ml+水150ℓ)	8倍、0.8ℓ/10a (各薬剤100ml+水600ml=合計800ml)
2回目 莢いっぱいの子実が 肥大した頃 【8月下旬】	紫斑病 カメムシ類	トライトレボン粉剤DL (3kg/10a)	アミスタートレボンSE	
			1000倍、150ℓ/10a (薬剤150ml+水150ℓ)	8倍、0.8ℓ/10a (薬剤100ml+水700ml)

(2) 随時防除

- ・日頃からほ場を観察し、病虫害の**早期発見**と**適期防除**に努めましょう。

対象病虫害	防除時期	粉剤体系	液剤体系
ウコンノメイガ	葉が巻き始めた頃 【7月下旬～8月上旬】	ダントツH粉剤DL 4kg/10a	プレバソフフロアブル5 【地上】4000倍、150ℓ（薬剤37.5ml+水150ℓ） 【空散】16倍、0.8ℓ（薬剤50ml+水750ml）
カメムシ類	9月上旬頃	スミチオン粉剤3DL 4kg/10a	カスケード乳剤 【地上】4000倍、150ℓ（薬剤37.5ml+水150ℓ） 【空散】32倍、0.8ℓ（薬剤25ml+水775ml）
ハスモンヨトウ	9月上旬頃	—	
葉焼病	発生初期 【7月下旬～8月上旬】	—	Zボルドー 【地上】500倍、150ℓ（薬剤300g+水150ℓ）

3 雑防除雑草対策（営農日誌p102、107参照）

- ・**早期発見**と**早期除草**に努め、発生範囲の拡大と種子の増殖を防ぎましょう。
- ・発生草種に応じて除草剤を選択し、大豆や周辺に除草剤が飛散しないように注意しましょう。

【電話によるお問い合わせ先】

砺波農林振興センター	農業普及課 砺波班	32-8113		
とнами野農業協同組合	経済部 生産企画課	32-8619	資材配送センター・あぐり館	32-5440
	稲種センター	82-0117	農業機械センター	58-5520

次号（収穫、乾燥・調製）は9月28日頃の発行予定です